

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up, TOHOKU!

2014年(平成26年)8月16日 土曜日

無料

第27号

毎月発行

創刊2014年(平成26年)8月16日 土曜日

3・11 犠牲者のご遺族のこと

3年5カ月経過したお盆の季節にあえて取り上げる

そこには定型に収まりきれない
さまざまな関係と生き方がある

3年5カ月後の お盆での問題提起

この8月11日で3年5カ月が経った。そしてこの時期はちょうどお盆の時期でもある。

お盆は祖先の霊を祀る古くからの行事で大変に長い歴史がある。今年も全国各地で、そして被災地でもそれにまつわる行事が執り行われることであろう。

しかし、「ご遺族にとって、震災犠牲者たちはもう「祖先」の列に並んでいるのだろうか。そして「祖先」として供養するという心の準備ができているだろうか。それともまだ「祖先」になりきれずにいるのだろうか。

あらためてこうした問いを発せざるを得ないほどの大きな傷跡が今も残っているであろうし、3年5カ月という時間経過のなかでこ

遺族の心のけじめがつけられていないのか、まだその時期には程遠いのか、筆者も含めて、遺族でないものたちはどうすればいいのか、読者とともに考えてみたいとの思いからこのテーマを取り上げた。

そしてまた、この問題はあまりにも重すぎて当新聞も迂回してきたが、お盆という時期にあたって、あえて無謀とのそしりを覚悟のうえで、取り上げてみたいと思つた次第である。

あまりにも重すぎて 口に出せない

人は大きな精神的ショックを受けると、そのことを口に出すことさえできなくなるように造られている。口に出した途端に、いままで抑え込んできた強烈な感情が爆発して、自らの精神状態が制御不能状態に陥るといふ危険性を感じるからであろうか。あるいは、もつと深刻で、心の均衡が一挙に崩壊する危険性を直感するからであろうか。

犠牲になられた方々のご遺族にとって、3年5カ月が過ぎた今でも、傷口を開けばそうしたりスクに遭遇するような出来事なのだ。ご遺族同士でさえ、さらには残された家族同士でさえ口に出せないでいるのを何度も見ている。心中は想像さえできない。

きつとそのあまりにも大きな衝撃は心の内部で凍りついたままであろう。融け

ていくにはもつともつと時間がかるであろう。融けはじめのままで、周囲にいるものたちは、じつと声をひそめて、いるしかない。ご遺族より先に口を開くことはできないだろうとも思うのである。

ありきたりの供養では 供養できない

ではお盆の季節を迎え、ご遺族は何もしないかといえば、そうではない。

しかし、いまの時点で犠牲者を供養するとしても、3・11発生以前の供養と同じような供養はやれないのではないだろうか。

ではその代わりの最もふさわしい供養の方法がどんなものかと問われて即座に返答できる人も少ないであろう。というより返答に窮するであろう。

かつ、犠牲者を供養するためには、まず亡くなったという厳然たる事実を真正面から受け容れることが必要だが、それが終わっていないのではないだろうか。つまり、どうして亡くならなければならなかったという点について、ご遺族の心の決着はついていないのではないだろうか。その決着なしに死を受け容れることはできない。

供養とは、その死の受け容れがあつて初めて可能になるものだと思う。

宗教は救いとなつたか

今般の大震災はすべての既存宗教の存在意義を問わ

ずにはいなかつたと思う。

それぞれの宗教・宗派に属する宗教者たちは、大震災のありさまに直面して、3・11以前と同じレベルで言葉を発することはむずかしかつたであろう。

実は先祖供養は 宗教儀式ではない

そもそも「供養」とは何だろう。ウィキペディアから引用する。(筆者抜粋)

供養とは、仏、菩薩、諸天などに香・華・燈明・飲食などの供物を真心から捧げること。

日本の民間信仰では死者・祖先に対する追善供養のことを特に供養ということが多く、これから派生して仏教と関係なく死者への対応という意味で広く供養と呼

ぶこともある。

に供養したのか、あるいは供養しようとしているのか。そこに明確な言葉を既存宗教は発したのだろうか。

筆者は震災後に供養や葬儀の由来を調べてみた。その結果、これらは仏教儀式ではなく、かなり古くからの民間の信仰であるということが分かつた。つまりは

既存宗教誕生はるか以前、人類誕生後から連続と続く原初的信仰に由来する。

したがって、誤解を恐れずにいえば、震災犠牲者を供養するに、また葬儀を出すのに、既存宗教の枠組から飛び出す必要があるの

ではないかと感じてきた。

もつといえ、既存宗教よりもつと深いところで亡くなった犠牲者たちと交信する必要がある。また日本人の心の底流として古代から継承されてきた原初的な世界観に行きつく必要があるとも思うのである。

仙台市職員 故大友純平氏の場合

当新聞創刊以来の寄稿者である大友浩平氏の実弟の故純平氏は仙台市の職員で、荒浜地区で広報車から住民に避難を呼びかけていた最中に亡くなられた。

このことは後で知つたのだが、さらにご両親が、亡

毎日新聞より

毎日新聞 2014年07月12日 00時04分
東日本大震災：「命がけの公務」に証しを
犠牲職員の父

イピンは邦夫さんが贈つたもの。仙台市中、伊藤直孝撮影



大友純平さんの遺体は震災から49日目に発見された。職員証や携帯は身に着けたままだった。ネクタイ

東日本大震災の津波で犠牲になつた公務員に「特殊公務災害」が逆転認定されるケースが相次いだため、地方公務員災害補償基金(東京)が5月から受け付けている遺族からの再申請が、伸び悩んでいる。逆転で次男の特殊公務災害が認められた父親は「住民のため最期まで頑張った本人のために、一人でも多く再申請してほしい」と訴える。

仙台市沿岸部の荒浜地区付近で広報車から住民に避難を呼びかけていた同市若林区役所職員の大友純平さん(当時38歳)は、震災49日目に遺体で見つかった。遺体安置所に横たわった。大友さんが身に付けていたネクタイとイピンは父邦夫さん(76)が約10年前に譲つたものだった。「発展する仙台の街を見るのが楽しみ」と話していた息子の夢はついていた。「大変だったね。ご苦労さんね」と話しかけ、あとは言葉が続かなかつた。

両親は特殊公務災害の認定を請求したが、同基金仙

台支部は該当しないと判断。弁護士らでつくる第三者機関の市支部審査会も昨年8月、「生命の危険を冒してまで広報するよう指示されていたとは認められない」と追認した。両親は息子の行動そのものが否定されたように感じ、本部審査会に不服を申し立てた。本部審査会は広報車出発時には大津波警報が発令されていたことから、職務の危険性の高さを認め、5月28日付で特殊公務災害を逆転認定した。

同基金も審査の基準を事実上緩和し、再申請の受け付けを始めた。だが、再申請

は6月26日までに9件にとどまっている。邦夫さんは「再請求や不服申し立ては勤務先に対する責任追及ではない。危険な業務と認められることで、行政による再発防止につながり、亡くなった人に報いることができる」とその意義を語る。

【伊藤直孝】
*さらに詳しい情報は下記の大友浩平氏ブログを参照
「私の東北論その43」弟の最後の足跡を追う
2013年03月11日
http://blog.livedoor.jp/anagm5/archives/51938950.html

遠野物語 第99話

この話は3・11ではなく、明治29年の「明治三陸地震津波」にまつわる話である。かつ、この話に關係する人は存命中で実話である。

遠野から沿岸に婿入りした男が津波に遭遇し、妻子を失う。残った子ども2人と元の屋敷に小屋掛けして暮らしていた時、妻の亡霊が現れるという話である。

この話には、子供を残して死んでいった死者と妻子に先立たれた生者の悲しいまでの交流が描かれている。しかも、その交流は現実世界では通常あり得ないものである。

それでもこの交流はなくてはならないものであった。なければ死者を供養することもできず、遺族も区切りをつけることはできない。

震災直後あちこちの被災地であった幽霊騒ぎも悲しい。ご遺体が出て来ないのであればせめて幽霊と交流したいとの願いがあつた。

最後に来る復興とは？

震災からの復興にはインフラの復旧もあり、住宅の復興もあるが、最大のものは、遺族が犠牲者の死を受け容れ、供養することができて、その供養を踏まえて、再興に踏み出すことであると思う。そこにはさまざまな供養がある。犠牲者たちとの多様な交流がある。それが根源的な復興開始であると考えられる。

〔遠野学〕創刊号「特集 震災と文化」より

〔注〕遠野物語99話

土淵村の助役北川清といふ人の家は字火尻にあり。代々の山臥(やまふし)にて祖父は正福院といひ、學者にて著作多く、村のために尽くしたる人なり。清の弟に福二といふ人は海岸の田の浜へ婿に行きたるが、先年の大海嘯(おおつなみ)に遭ひて妻と子を失ひ、生き残りたる二人の子と共に元の屋敷の地に小屋を掛けて一年ばかりありき。夏の初めの月夜に便所に起き出し、遠く離れた所にありて行く道も浪の打つ渚なり。霧の布(し)きたる夜なりしが、その霧の中より男女二人の者の近寄るを見れば、女はまさしく亡くなりしわが妻なり。思はずその跡をつけて、はるばる船越村の方へ行く崎の洞(ほこら)ある所まで追ひ行き、名を呼びたるに、振り返りてにこと笑ひたり。男はと見ればこれも同じ里の者にて海嘯の難に死せし者なり。自分が婿に入りし以前に互ひに深く心を通はせたりと聞きし男なり。今はこの人と夫婦になりてありといふに、子供は可愛くないのかといへば、女は少しく顔の色を変へて泣きたり。死したる人と物言ふとは思われずして、悲しく情けなくなりたれば足元を見てありし間に、男女は再び足早にそこを立ち退きて、小浦(おうら)へ行く道の山陰を廻(めぐ)り見えずなりたり。追ひかけて見たりしがふと死したる者なりと心付き、夜明まで道中に立ちて考へ、朝になりて帰りたり。その後、久しく煩(わづら)ひたりといへり。

〔田の浜(山田町船越)の被災状況〕
(明治29年6月15日)
全戸270戸流失、死者763人。火災発生し、役場職員全員死亡。津波の高さ9・11メートル。

復興バー@銀座 7/16

昨年にも続いての連続開催
1日マスターは『石巻女す会』

昨年にも取り上げた「復興バー@銀座」

当新聞では、他の復興支援活動も積極的に取り上げ、裾野の広い総合的な復興支援活動形成に少しでも貢献できるような紙面づくりをして行こうという方針で臨んできた。

この「復興バー@銀座」は昨年も取り上げている。(第14号:バックナンバー参照)

昨年は1カ月限定の日替



石巻女す会メンバー



石巻女す会メンバー



開店直後の店内

「復興バー@銀座」

運営は一般社団法人ISHINOMAKI2:0

である(宮城県石巻市)。2011年6月、「東日本大震災を経験した石巻というまちを、震災前の状況に戻すのではなく、新しいまちへとバージョンアップさせるために」というコンセプトで設立され、2012

年2月に一般社団法人となった。

昨年は毎日平均60人、多い日には100人を超える客が来店。フェイスブックページで公募し、復興に関するさまざまなテーマを掲げた「一日マスター」を囲んで連日にぎわいを見せた。

「石巻女す会」が一日マスター

当日は、石巻女子高のOBたち約10名で「石巻女す会」という会を組織し、「一日マスター」を務めた。開店前に簡単なインタビューを考へていた。開店後はゆっくり話もできないと思っ

た。月13日オープン、7月19日までの期間限定営業となった。

しかしメイン会場からはただならぬ殺気が伝わってきた。当然である。全員まとったくの素人。それが一日とはいえないきなり居酒屋の運営を行うのだ。緊張しい方がおかしい。開店17時と同時に会場へ。浴衣を着た方やら、Tシャツにエプロン姿の美女たちが入り乱れ、接客と酒と料理を提供する。常連客もわんざと押し掛け、会場は一挙に興奮の渦と化す。大声でないと聞かえない。それでも何枚か写真撮影。

厨房組の中に、前述の筆者の高校後輩の中学時代の同級生がいた。後輩とはすれ違い参加で会えなかったが、同級生に伝言を託す。訪問は短時間であったが、多くの友達もでき、大いに盛り上がった「復興バー@銀座」であった。次回の3回目を期待したい。



復興バー@銀座 フラッグ



日替りマスター一覧

第8回 三陸酒海鮮会・渋谷開催

久々の20名の参加(7/26)
カードマジックあり、二次会も盛り上げる

次回は渋谷開催が9/27(土)
日本橋開催は9/4(木)



地酒ラインアップ

ここ数回は参加者数が減少しつつあり、最悪の時には、あまりにも参加が少ないため繰り延べまでせざるを得ない状況となっております。そのため、会その

ものの存続が若干危ぶまれておりました。ところが、第8回目の今回は一転して20名もの参加で大盛況でした。参加者の皆さんにはこの紙面を借りてお礼申し上げたいと思います。



ご参加いただいた方々 ①



生きている大きなホタテ

夏場の開催は特に苦勞いたします。この会の趣旨として、三陸の海産物と三陸の地酒をおいしくいただき、三陸被災地の復興に少しでも貢献しようというところででした。しかし困ったのは、この真夏に地酒を飲むということと三陸の夏の



ご参加いただいた方々 ②



牛タンとハタハタとホッケ

海産物で適当な素材を見つけていくということですが、この点で、会場となった焚火屋さんの方でいろいろ考えていただき、冬や春先の鍋に代わって、かまぼこやいわゆる練り物を出していただきました。ついでホタテのサラダ、ホタテ焼き、

最後に牛タン、ハタハタという焼き物も提供していただき大いに助かりました。参加者の皆さんも、これまでと違ったメニューを歓迎していたようですし、とても大きい生きホタテに歓声が上がったほどです。年齢的には若い参加者が多くともにぎやかでした。飲み食いがひと段落した時間に、参加者のひとりがカードマジックを披露しました。素人芸にしてはレベルが高すぎて、プロを指すべきという意見が多数寄せられました。

また現在は東京圏だけの開催となっておりますが、東北での開催も検討していきたいと考えております。

第四回 とにかく東北を語る会

7/19開催、話題は、昨今の政治状況と東北、仙台での三陸酒海鮮会の開催可能性、仙台の不動産業者倒産の話、縄文遺跡巡りなどまたあちこちに展開

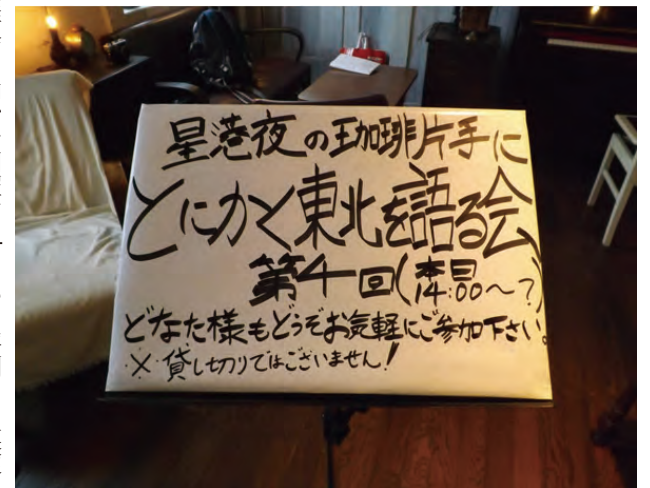
次回はセミナー、テーマは「山王遺跡の話」。特定のテーマに絞った第5回目となる予定



ご参加いただいた面々

第4回目の「とにかく東北を語る会」の当日は、非常に天候が悪く、土砂降り。参加者の出足が悪かった。誰も来ないかとあきらめかけていたところに、最初の参加者の早坂氏が登場。仙台市議である早坂氏と仙台市や宮城県、国政に関する意見交換をし、また三

陸酒海鮮会を仙台で開催する可能性について話しているうちに、2番目の佐藤氏登場。集団的自衛権に関する意見交換はあいさつ代わりに、3番目はほどなくして猪岡氏の登場。そこにマスターも加わり、本格的な意見交換の場となった。仙台市の不動産業は活況



手書きの看板

けるための新機軸を真剣に打ち出すべしと意見一致。新産業としての観光事業も、東北六魂祭を見るとむずかしい。各県庁所在地で一日10万人少く対応に四苦八苦している事業としての観光はむずかしい。仙台地下鉄工事も予算がどんどん膨らんで大変だ。小学生の農業体験や漁業体験の民泊はどうかという意見も出た。

という評判とは裏腹に、倒産する業者が増えているという。工事入札したくともコスト割れでは入札できない。こうした矛盾が東北被災地を襲っていることをもつと訴える必要がある。日本創生会議の「消滅可能都市」も議論。東北の市町村は若い女性群を惹きつ

次回は考古学専門の齋藤和機氏による「山王遺跡」のセミナーとなる。テーマを絞った初めての会となる。乞うご期待。

第5回 とにかく東北を語る会 セミナー：【山王遺跡の話】

日時 2014年9月21日(日)15:00から
場所 星港夜(シンガポールナイト)
〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1丁目12-1
TEL:022-292-2926

テーマ 【山王遺跡の話】

講師 齋藤和機氏

内容 山王遺跡は、弥生時代から中世にかけての遺跡でこれまでに多数の調査が行われた。遺跡の北側の丘の上に陸奥国府・多賀城がおかれた奈良・平安時代には、約100mごとの基盤の目状の道路で区画された町並みが広がっていたことが分かっている。このような都市が国府のすぐ近くに存在することは、古代史上非常に重要な意味を持っているといえる。きっと古代東北史にも大きな影響を与えることだろう。

自転車のススメ(後編)



身近であるがゆえに「すぎさ」が見えない

自転車

前回、災害時の避難手段

として自転車に着目する記事を書いた。そして、災害時に有効に活用するために、も普段からもっと自転車を利用しようと呼び掛けた。しかし、この自転車、あまりに身近な交通手段であるがゆえに、逆にあまり深く知られていないことも多い。「自転車ってすごい」と思うようなこともある。そこで今回はこの自転車について、もう少し詳しく見ていこうと思う。

ずば抜けて優れたエネルギー効率

自転車の「すぎさ」を説明する際によく引き合いに出される話だが、そもそも自転車は、そのエネルギー効率がずば抜けて優れている。自転車に乗った人間のエネルギー効率は、すべて

の生物や乗り物(ただし動力なしで滑空するグライダーや宇宙空間を慣性で進むロケットなどは除いて)を上回るのである。

徒歩の人間のエネルギー効率は0.75 cal/g/kmである。1 cal/g/kmは1gのものを1km移動させるのに必要なエネルギーを表している。この数値が少なければ少ないほどエネルギー効率がよいということになる。車のエネルギー効率は0.8 cal/g/km、馬のそれは0.7 cal/g/kmなので、人間のエネルギー効率は車よりはよいが馬には劣るといことになる。

この他に、乗り物ではヘリコプターが3.6 cal/g/km、ジェット機は1.6 cal/g/kmだが、旅客機は0.6 cal/g/kmで人間のエネルギー効率は上回っている。生物では、ねずみとハエ、ハチが15 cal/g/km、バッタが5.5 cal/g/km、うさぎが4.5 cal/g/kmなど、小動物は軒並みエネルギー効率があまりよくないが、羊が1.1 cal/g/km、鳩が1.0 cal/g/km、牛が0.6 cal/g/kmと身体サイズが大きくなるにつれてエネルギー効率がよくなる傾向が見える。生物の中で圧倒的にエネルギー効率のよいのは鯉で、その値は0.4 cal/g/kmである(全生物中最

高のエネルギー効率を誇るのはカジキやマグロだと思われるがそれらのエネルギー効率は不明)。

これに対して、自転車に乗った人間のエネルギー効率はというと、驚くべきことなんど0.15 cal/g/kmである。すなわち、生物の中で圧倒的にエネルギー効率のよい鯉の3倍近く、徒歩の人間よりも5倍もエネルギー効率がよいのである。

だから、同じ人力でも自転車は、歩いたり走ったりするよりも、楽に、遠くに行けるわけである。このずば抜けて優れたエネルギー効率というところから見ると、自転車は実は人類が生み出した最高の発明品なのではないか、という気さえする。

自転車の最高速度記録は

時速100km超

エネルギー効率がよいということは、エネルギー

を無駄遣いしないので済むということである。例えば自転車で時速30kmで巡航している時の出力を計算してみると、だいたい112Wほどである。1馬力約735.5Wなので、そうすると自転車で時速30kmで走っているの出力は約0.15馬力である。

ここで、これまで記録された単独走行の自転車の最高時速は、これまた驚くべきこと、時速132.5kmである。この記録を達成したサム・ウィッティンガムさんはもちろん普通の人も体力はあるのだろうか、それでもその出力は1馬力を超えていないはずである。

なぜなら、世界最高峰の自転車レース、ツール・ド・フランスを走破するプロ選手が個人タイムトライアル(集団で走るのはなく空気を抵抗をすべて自分で受けての単独走行である)で出した平均出力が379W、約0.52馬力だったとの調査結果があるからである。時速132.5kmを記録した自転車はカウリングなどで車体を覆って空気抵抗を徹底的に少なくした特殊な形状をした自転車ではあるが、それでも最大でも1馬力の半分強しかない人力で時速100km以上出せるということはあるわけである。高速道路を時速100kmで走る車の出力が数十から数百馬力であることを考えればよく分かるように、それだけ自転車のエ

二酸化炭素排出抑制にも効果

このようにエネルギー効率が優れている自転車は二酸化炭素排出抑制にも効果がある。例えば、普通の人なら自転車で5kmくらいは走れるだろう。一方、とある資料によると自動車通勤をしている人の64.2%は通勤距離が5km未満とのことである。これらの人が自転車通勤に切り替えた場合、道路交通法で元々そう決まっていたことを再告知しただけに過ぎない。

警察庁はまた、2011年10月に都道府県警察長に向けて「良好な自転車交通秩序の実現のための総合対策の推進について」という交通局長名の通達を送付している。その中で、自転車についてこれまで「道路車についてこれまで、道路交通の場においては歩行者と同様の取扱いをされるものである」という誤解が生じていた」として、「車道を通行する自転車の安全と歩道を通行する歩行者の安全の双方を確保するため、今一度、自転車は『車両』であるということ、自転車利用者のみならず、自動車等の運転者を始め交通社会を構成する全ての者に徹底させることとした」とある。この「自転車は『車両』」という、道路交通法にも規定されているこの表現も、自転車愛好者にとっては「何を今さら」というものであった一方、そうでない人にとっては「寝耳に水」のものであったようだ。自転車車が日常の足として身近な存在であった一方、「車両」という意識が希薄だったことで、車では遵守することが当たり前で、歩道では歩行者が安全に歩くためのものではないという事柄にもつながっていたようにも思われる。

問われる乗る側の姿勢

自転車に対するこうした警察庁の積極的とも言える姿勢に対して、各地の自治体では取り組みの姿勢に差があるようだが、幸い仙台市で前紹介した「杜の都の自転車プラン」の中の「安全・安心な道路空間の形成」で、「自転車ネットワーク路線」の整備を行う姿勢を打ち出している。具体的には都心部と都心部以外で優先的に整備する路線を決め、状況に応じて①自転車道、②自転車専用通行帯(自転車レーン)、③車道走行(路肩のカラー化等)、④自転車歩行者道内での分離、⑤ゆっくり走行路線といった項目で整備を行うというものである。

警察庁はこの通達にある基本的な考え方として私が評価している箇所としては、「自転車本来の走行性能の発揮を求め、自転車利用者には歩道以外の場所を通行するよう促す」一方、「利用者が歩道を通行することがやむを得ない場合には、歩行者優先というルールを遵守を徹底させる」ということが明記されていることである。ここでは、交通手段としての自転車の可能性を警察庁が十分に認識していることが窺え、かつそのために「自転車道や普通自転車専用通行帯等の自転車の通行環境の整備を推進」することも謳われている。その一方でそこまでの走行性能を求めない人には歩道の通行も許容しており、極めて柔軟に対応している。かつ「歩行者優先」というルールを遵守を徹底させることとした」とある。

「何を今さら」というものであった一方、そうでない人にとっては「寝耳に水」のものであったようだ。自転車車が日常の足として身近な存在であった一方、「車両」という意識が希薄だったことで、車では遵守することが当たり前で、歩道では歩行者が安全に歩くためのものではないという事柄にもつながっていたようにも思われる。

警察庁のこの通達にある基本的な考え方として私が評価している箇所としては、「自転車本来の走行性能の発揮を求め、自転車利用者には歩道以外の場所を通行するよう促す」一方、「利用者が歩道を通行することがやむを得ない場合には、歩行者優先というルールを遵守を徹底させる」ということが明記されていることである。ここでは、交通手段としての自転車の可能性を警察庁が十分に認識していることが窺え、かつそのために「自転車道や普通自転車専用通行帯等の自転車の通行環境の整備を推進」することも謳われている。その一方でそこまでの走行性能を求めない人には歩道の通行も許容しており、極めて柔軟に対応している。かつ「歩行者優先」というルールを遵守を徹底させることとした」とある。

警察庁のこの通達にある基本的な考え方として私が評価している箇所としては、「自転車本来の走行性能の発揮を求め、自転車利用者には歩道以外の場所を通行するよう促す」一方、「利用者が歩道を通行することがやむを得ない場合には、歩行者優先というルールを遵守を徹底させる」ということが明記されていることである。ここでは、交通手段としての自転車の可能性を警察庁が十分に認識していることが窺え、かつそのために「自転車道や普通自転車専用通行帯等の自転車の通行環境の整備を推進」することも謳われている。その一方でそこまでの走行性能を求めない人には歩道の通行も許容しており、極めて柔軟に対応している。かつ「歩行者優先」というルールを遵守を徹底させることとした」とある。

を考えると、実に首肯できる対応である。③自転車に対する指導取締りの強化、の3点が挙げられている。②や③が挙げられるということは、それが必要とされる現状があるということの現れである。実際、自転車に乗る人が増えてきたのは喜ばしいことなのだが、交通マナーが行き届いていない場面に遭遇することも多い。ちよつと挙げられるだけでも、車道の右側通行、夜間の無灯火走行、雨天時の傘差し走行、携帯電話を操作しながらの走行、歩道での速度超過、2列以上の並列走行、などである。乗る側がこうした走行をしている限り、警察庁による指導や取締りが強化され続け、果ては車と同様の免許制度が導入され、気がついてから身近な乗り物であるはずの自転車がいつの間にか乗りにくい乗り物になっていったというような事態も起きないとは限らない。

要は、「車両」の一つである自転車の位置づけがいまだよく理解されていないということでもあるのだと思う。自転車がともすれば凶器ともなりうる乗り物であること、乗るには交通法規を遵守することが求められるということ、肝に銘じておく必要がある。そこを十分に認識した上で、いざ災害発生時に慌てないためにも、普段から自転車にもっと乗ることを勧めたいと思う。

執筆者紹介

大友浩平 (おほともひろへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
http://blog.livedoor.jp/anagmasi/



Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.ohtomo

エネルギー効率がよいということは、エネルギー

連載
むかしばなし

芭蕉のむかしばなし

第十五話
変わり身の錦



奥羽越後現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出没し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当。

「これより参ります青葉山は、続く南の愛宕向山も同様、川の対岸であり、二つは対と考えられます。更には青葉山の背後、太白山と合わせて天狗台三山と言えらるものでしょう。」

「どこか修学旅行の引率のように、だが少々重々しく、芭蕉は最後に残った一行の面々へ説明した。」
「本当に、こんな怖ろしげな所に仙臺のような大都市ができるんでしょうか。」
「純三がぼやくように言う。彼らは今、七百年後に」

「西公園」となるはずは、原生林の前には、
「いや・・だからこそです。まずまず、私は住みたくなってきました。」
佐々木喜善は両腕に手を入れた、どこか面白そうに身体を揺らして言う。
「しかし、本当に住めるのか・・わからなくなってきました。私の人生はほとんど破綻していたようなものですが、それでもあの時代に、妻と、若の弟ら三人を残してきています。それだけが心残りですな。」
宮澤賢治が応えて言う。
「もし、元の時代に戻れないのであれば、私が天界の穀物を求める理由もないのです。私は、七百年後とそ

の未来の奥羽のために、かの対岸に向かいます。喜善さん、あの時代に必ず帰りますよ。私どもの生きる世界はあそこにあります。」
賢治は決して辛辣に陥らさずどこか飄々と話を続ける。
「西公園といえは・・約束していた訳ではないですが、石川善助さんが、私が仙臺に来る日はこの博覧会会場をうるついでにいるから、会えたら幸運ですと、手紙に書いてくれていまし

た。」
喜善が相槌を打つ。
「石川さんは私も知っています。昨年でしたが、『青狐』という文芸誌の、童子思慕、という作品が素晴らしくて、よく憶えています。」
「彼の詩は素晴らしいです。三年程前と、あと今年も、詩人協会の機関紙などで発表の機会を下さった。そういえば、昨年から仙臺の明治製菓にお勤めと聞いています。その所在地がまさに、芭蕉の辻、あの交差点でした。」
「ああ、あの、大きなチョコレート店の看板の。」
前を行く芭蕉の顔が少しこちらを向いたようだった。

「芭蕉さん、もしやご存知でしたか。」
「石川殿には、何かとお力お借り致しました。」
賢治は少し驚いたようだが、すぐ得心したらしく微笑を浮かべるのだった。
「そうですね。そういえば、彼にも石の事を話しましたから・・気にされていたのです。」
喜善、純三にとって不思議な話だったが、ともかく二人の会話に聞き入る。
「石川殿も、数奇なる勘や、ご縁をお持ちの方です。拙僧が辻に立っていたところ、お勤め先から出てこられて、話しかけられました。拙僧を昔から知っている、と仰せで。」
「何と・昔から、ですか。」
「石川殿は、国分町のお生まれで、あの町の霊脈をよく感知しておられた。」
「霊脈・・ですか。」
「自らの出生した国分町通りが、仙臺の背骨である事。そこから、いくつかの地点で形成される図形が、都市を守護している事。」
賢治は頷いて応えた。

「彼が三年前、森佐一君と連れ立って花巻を訪れた時、夢中になって子供の頃出会った座敷ぼつこの事など、話してくれました。」
仙臺にはいろいろの怪異があるのです、実におかしな街なのです、と言つてね。」
「先程、その方も、石の事をご存知だったと・・」
喜善が切り込んでくる。
「そうですね。私が部屋に飾っていた石に非常に関心を持たれていました。私が樺太で拵えたものだと言つすと、大層驚かれました。」
「かつ、樺太！サハリンですか？」
芭蕉以外の、皆が驚いた様子である。賢治が微笑して、何か、詩のような言葉を静かに語り始めた。

「北へ・・ああ、あの極光の方へ。われら新しい国を建てよう・・」
大河太郎兼任は国衡の陣に乗り込んだ敵兵十三人を槍一本で迎え撃った。振り回すと槍は咆哮の如き異様な音を響かせ、打たれた敵兵が次々に吹き飛んだ。続いて大河太郎、背負う箱から赤黒い石を三つ取り出すと左手の指の間に挟んで何事か呟き、遠くまで投げ放った。石の一つは日本にはいないはずの犀、一つは毛のない大猿、そして残る一つは大蛙となつて暴れ始め、山越えしてきた兵どもは悲鳴を上げ逃げ惑った。ところが次の瞬間にはまたも雷鳴が轟いて、稲妻が山腹を疾走する犀を貫いてたちまち跡形もなく消し去った。

駄目だ、大河太郎は舌打ちした。雷神が妖術で繰り出した化身を察知して潰しに来る。丈十尺の大猿(所謂、トロールである)が高々と咆哮し巨大な枯れ樹を振り回すも、やはり稲妻がその両腕、次いで頭をもぎ取り、消し去るのだった。大河太郎は山越えしてくる大軍を見渡した。南から長い旅をしてきた、祭にも似た狂気の中にあるこの大集団を止める事など、到底無理な話か・・太郎は眉を顰めた。
稲妻が遂に大蛙の上に落ちたが、蝦蟇は瞬時に大口を開けて巨大な光の剣を銜えこみ、たちまち地面にねじ伏せた。
大河太郎は、大蛙の口に挟まっているのが、鬼のよ

うな形相の、ひとりの武者である事を認めた。確かに、源頼朝の亡き兄、鎌倉源太・義平に違ひなかつた。
おのれ！という怒号が聞こえたかに思える程の憤怒に燃える魔物は蝦蟇の口をこじ開けようとしたが、次の瞬間、その姿が消えた。大蛙が、この恐るべき武者の姿の鬼神を飲み込んでしまったのだった。

よし！と叫び、大河太郎は動いた。また一つ、箱から赤黒い石を取り出し、地に放つと、それは周りの土くれを集めて黒い見事な馬に変身した。
蝦蟇の胃は魔物をも強力に消化するが、中の義平は狂つたように暴れている。蝦蟇がその巨大な前脚で土を掘り、地中に潜り始めるのを認めると、大河太郎は馬に飛び乗り、遂に山を降り始めた。

国衡が解体を命じた奥州軍は既に散り散りとなり、山越えした敵兵と混在しながら多くが山を駆け下りていった。大河太郎の馬は彼らの姿を次々に追い抜いて、たちまち白石の野に達した。
遙か背後で爆発の音が響いた。おそらく、雷神・悪源太が蝦蟇の腹を破り、地表をも吹き飛ばして空へ飛び出たか。いくらか弱ってはいるはずだが、直にこの黒い馬の存在をも嗅ぎつけ、襲来するであろう。

大河太郎の臣下たちが、国衡を囲み、先導しながら北上する。
大河太郎は騎馬のまま背負った箱から錦に彩られた一枚の織物を引き出すと、それを空中にパツと広げて上半身を包むようにした。すると、何と大河太郎の姿は甲冑を身に着けた国衡のそれに変わり、同時に先を行く国衡の姿が突如、大河太郎のそれに変わった。
実は大河太郎兼任の眼には特殊な色覚があり、国衡はハツとしたが危急の事もあつて、しばらく自分の身に何が起つたのかわからなかつた。周りを囲う大河太郎の家臣達も、あらかじめ知っていたのか敢えて国衡に伝えない。

「西木戸様、こちらへ！」
太郎の家臣の一人、福士鋤八が先導し、白石川沿いを離れ蔵王方面へ更に北上する。
途中まで同じ道筋を駆けつけた大河太郎は、ひとり道を外れて更に白石川を東進、芝田・大高山に達した。そこへ対岸に追つ手の一団が出現、その中の一人がこちらへ叫ぶ。
「陸奥大將軍殿であるか。和田小太郎義盛と申す。お手合わせ願ひたい。」
来たな。国衡の姿を借りた魔人、大河太郎は馬を止め、振り返つた。色覚の変化に戸惑うも、一騎打ちの申し出を受け、長弓を手に取る。川を挟んだ二人の騎馬武者が、互いの矢を番え

て睨み合った。
*
若は悪夢から目覚め、体中に冷や汗を感じた。私はまだ、陸奥国分寺にいます。夢の記憶は鮮明だった。狩衣姿の老女と対面した途端、この女を殺さなければならぬ、という怖ろしい思念に捉われた。特に何か、武器を手にした訳ではないのに、突然老女が苦悶に顔を歪め、胸を押さえ膝を折つた。その時だ、背後に何者かの存在を感じたので振り返ると、そこに会つた事もない無骨な大男が立っていた。かなり遠い所、低い山の上にいるらしい事がわかつたが、何か思い悩むように佇んでいる。その面影に何か胸を締めつけられるような懐かしさを感ずるが、何故なのかわからない。明らかに、彼の周囲に複数の殺意が迫っている事・若は思はず、叫んだ。
周りを見て、と。
外が騒がしかった。痛む背中を押して半身起こし、耳を澄ますと、誰か寺を訪れた者がいるようだ。
近づいてくる廊下の足音がある。障子戸の向こうで、僧侶が呼びかけてくる。
「若殿。本吉様がお会いしたいとの事で参られたのですが・・いかが致しますか。」
「本吉・様とはどなたでしょう？」
「御館様の弟君、本吉冠者

シリーズ 遠野の自然 「遠野の夏」 遠野 1000 景より



我が家のニャンコ

遠野も夏ともなれば、花ばかりでなく、動物もさらに活発になる。
東京の夏に比べれば、遠野の夏はずっと涼しいようだ。気温が30度を軽く超える日が続くと続くということもあまりないし、まして

や40度直前まで上昇することもめったにない。最低気温は20度前後で涼しいというレベルのようで、毎日熱帯夜で睡眠不足が続くこともないようである。まことにうらやましい。
そんな環境であれば、動物



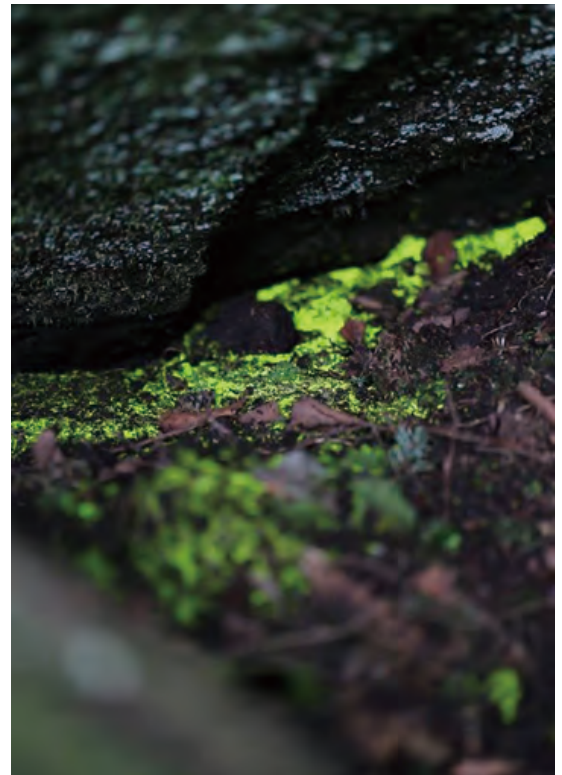
遠野の馬

物たちも暑さでぐったりすることなく、活発に活動することだろう。
◇
東京での日々の生活で筆者が見かける動物は、圧倒的に愛玩用ペットとしての犬であり、猫である。他の

動物がいけないかのように密度が高い。
この二つが突出するのは、きつと飼いやすいということなのだろうが、人間とは別種の生物というよりもやはりあくまでペットであり、あるいは「家族」とし



オオミズアオ



ヒカリゴケ



でんでん虫

ての動物である。「野生」とは程遠い。
他方、遠野の動物は当然愛玩用ペットが主体ではない。飼われている動物もいるが、家や小屋に閉じ込められ放しではないし、そのため動物本来の野生部分を残しているし、もちろん野生そのまの動物も多い。

たくさんいる。
写真は放牧のようだが、とてもおびびっている。
◇
オオミズアオ。ヤママユガ科に分類されるガの一種。蝶と異なり、ガという嫌われるが、アップで見ると巨大な触覚は美しい。もうこれはアートの領域である。

でんでん虫。昔はあちこちにて珍しくなかったがいまは東京都下でもめったに見かけることもない。
でんでん虫もカタツムリも陸に棲む巻貝の通称のようだが、生物学的な分類では多くの科にまたがるため厳密な定義はないという。

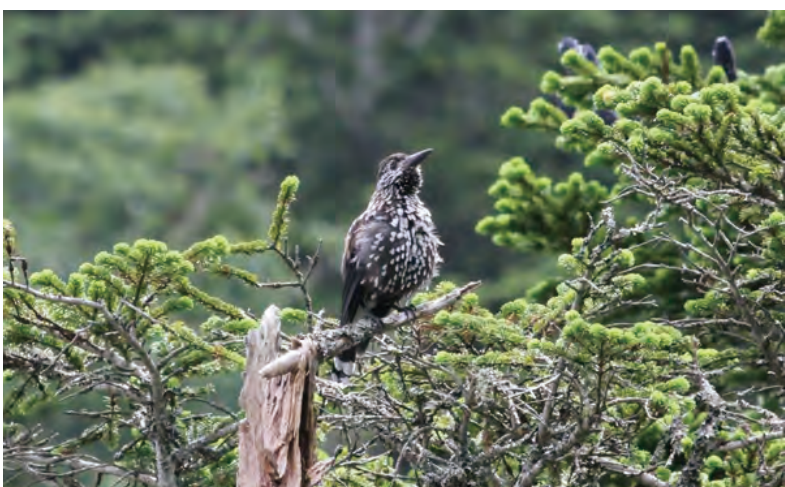
ホシガラス。星鴉と書きカラス科ホシガラス属に分類される鳥類の一種である。筆者は初めて見る鳥である。体長32—37cm。
日本では四国以北の高山帯から亜高山帯に生息する。体色は全体的にチョコレートのような黒茶色だが、白い斑点が縞をなして

いるため星空のようにみえる。和名の「ホシ」ガラスはこれに由来する。
◇
最後は、高原のアザミに蝶が止まっている写真。まことにのどかな光景である。夏でも涼しい高原のそよ風が吹いてくるようだ。

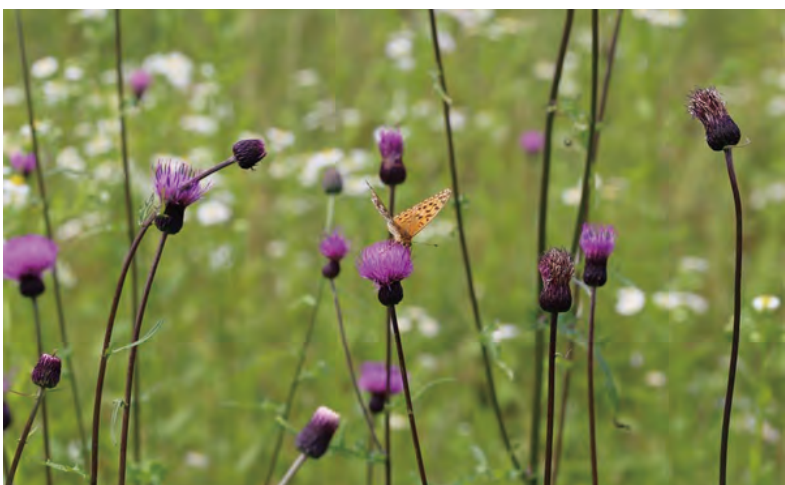
◇
最初はこの立派なネコ。遠野の動物として一番に取り上げるのも何だが、とにかく威厳があつていい。写真を見る限りでは、飼いネコというよりもヤマネコに見える。目が鋭くひげも長い。獲物を見つけたらすぐに飛びかかりそうである。また夜に外に出ればきつと野生を取り戻すのだろう。これは確かに都会のペット用の猫とはまったく違う動物である。

◇
動物ではないが、ヒカリゴケも取り上げた。その名が示す通り、洞窟のような暗所において金緑色に光る。自力で発光しているのではなく、レンズ状細胞というものが暗所に入ってくる僅かな光を反射することによるものである。まことに幻想的である。

◇
遠野は昔から馬の産地として有名である。野生馬は今の日本には皆無だが、遠野には野性味あふれる馬が



ホシガラス



高原のアザミと蝶

福島最終目的地決定

浄林寺 (福島県双葉郡富岡町)

福島第1原発の南約11キロに位置、いまだ放射線被害の大きな影響下にある避難指示解除準備区域内にあり

現在は長野市篠ノ井の長谷寺に逗留中 (14か寺目)

9月の秋分祭まで逗留予定

MONKフォーラム代表 長谷川稔氏寄稿

笑い仏さん

福島への行脚

第十五回

夏の暑さも盛りになってきました。そんな中、東を指す我が「笑い仏」さんに嬉しいニュースが飛び込んできたのです。福島県に住む協力者から、六月にこんなメールが。「福島で『笑い仏』を置いてもらえるところが見つかったよ！」

それでも昨年には、震災後初めてお盆の施餓鬼法要を執り行ったそう、今年もその準備に追われていること。まさに、原発被害と闘うお寺として福島の復興への過程を象徴する場所です。笑い仏さんの最終ゴールにこれ以上の場所はないと直感し、二つ返事をお願いしました。目下、来年の施餓鬼法要に間に合うように、福島入りができればと考えています。

七月一八日の観音様の縁日に合わせて引越させさせて頂いたため、当日は岡澤住職が参拝者の方々に、我々の活動を紹介して下さいました。皆さんからも色々と「笑い仏」のことを聞かれましたので、いかに多くの方々の協力でごまかして運ばれて来たのかを説明させて頂きました。このお寺には、九月の秋分祭まで逗留予定です。



長谷寺 立派な石垣



長谷寺の笑い仏さん



最終目的地の浄林寺



浄林寺入口

隣になった妙齢の紳士から声をかけられました。聞けば出身が僕らと同じ関西とのこと。自然と世間話となり、同席することになりました。彼は仕事で京都から長野にいられたので、奥様が現在アルツハイマー病で苦しまれており、ご自身で介護もされているという話を伺いました。

「私も若いときは忙しくて、一緒にいてあげられる時間が少なくてねえ。でも気付けばまた一緒になれている...。そう思うんだね。だから、君らと一緒にいられるときを大事にしなさいね。」

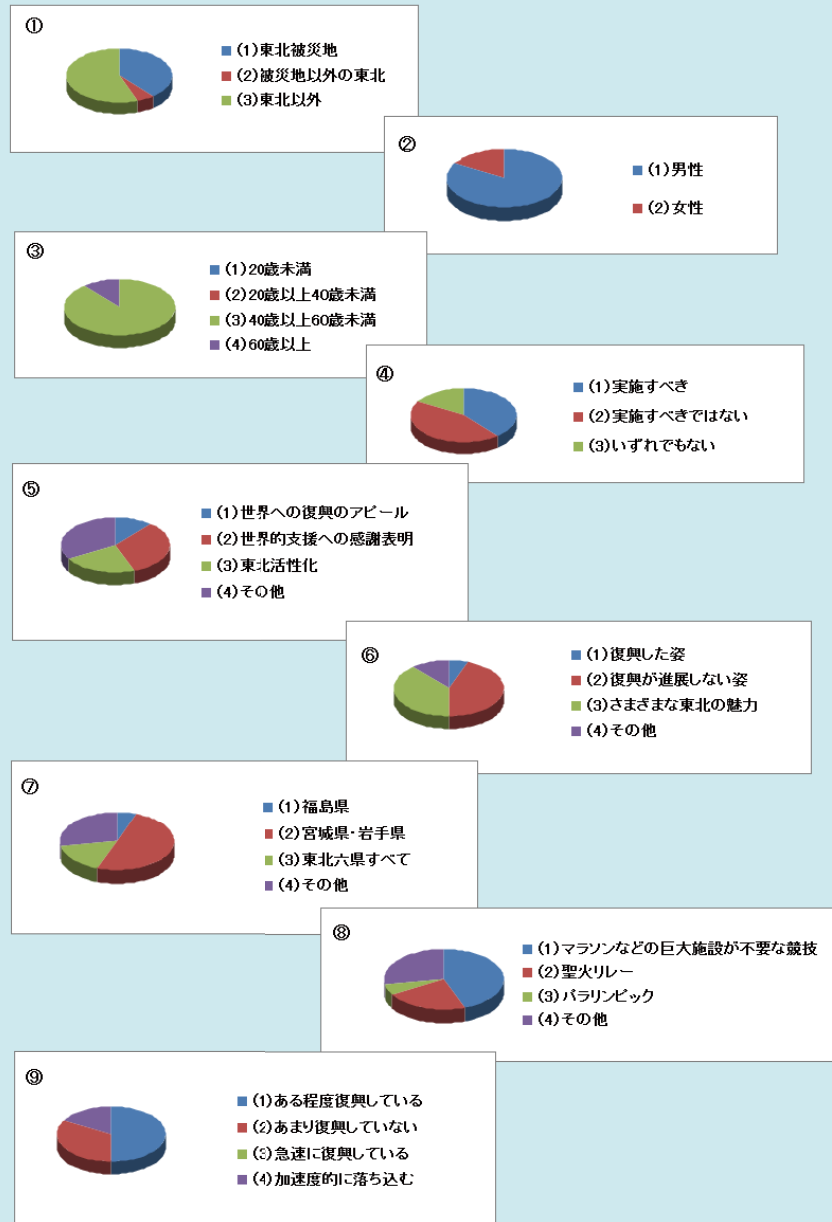
重みのある言葉でした。彼は介護の辛さなどおくびにも出さず、前向きに全てをとりかえていました。それどころか、「こういうボランティアは滅多にできることではないから、しっかりとやって下さいね」と、励まして頂きました。中々できることではありません。こういう活動をしている、思わぬところで素敵な出会いがあり、様々な方から色々なことを教えて頂くことが多いのです。

「がれき後背仏(笑い仏)」を拜んで頂くことで、少しでも多くの方々がこの仏さんと結縁し、笑顔になれるといい。これが作者の仏師である山本竜門さんの考えです。我々も同じ考えのもと、時間を見つけては車を飛ばして仏さんにお付き合いです。そこには皆さんの笑顔が生まれる。さあ、ようやくゴールが、おぼろげながらも見えてきました。

第26号 ネットアンケート集計結果

2020 東京オリンピックと東北の関係について

No.	質問と選択肢	回答数
① 住所	(1) 東北被災地	7
	(2) 被災地以外の東北	1
	(3) 東北以外	10
② 性別	(1) 男性	15
	(2) 女性	3
③ 年齢	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	0
	(3) 40歳以上60歳未満	16
	(4) 60歳以上	2
④ 競技などの一部参加をすべきか?	(1) 実施すべき	7
	(2) 実施すべきではない	8
	(3) いずれでもない	3
⑤ 実施すべき理由は?	(1) 世界への復興のアピール	2
	(2) 世界的支援への感謝表明	6
	(3) 東北活性化	4
	(4) その他	6
⑥ 競技以外で見たいものは?	(1) 復興した姿	1
	(2) 復興が進展しない姿	8
	(3) さまざまな東北の魅力	7
	(4) その他	2
⑦ 競技・催しはどこで開催するか?	(1) 福島県	1
	(2) 宮城県・岩手県	9
	(3) 東北六県すべて	3
	(4) その他	5
⑧ 実施する競技や催しは何か?	(1) マラソンなどの巨大施設が不要な競技	8
	(2) 聖火リレー	4
	(3) パラリンピック	1
	(4) その他	5
⑨ 2020年までに東北はどうなっているか?	(1) ある程度復興している	9
	(2) あまり復興していない	6
	(3) 急速に復興している	0
	(4) 加速度的に落ち込む	3



今回は【2020 東京オリンピックと東北の関係について】でした。最近東京都知事などの発言をきっかけに、東京オリンピックへの東北の関与が話題になってきております。そこでこの件について皆さんがどう考えているか聞いてみようと思いいちました。回答者は18名。

「競技などの一部参加をすべきか?」は「実施すべきではない」が約44.4%、「実施すべき」が約38.9%で拮抗。「実施すべき理由は?」は、前項の回答の影響もあり、「世界的支援への感謝表明」と「その他」が同数で約33.3%。「東北活性化」が約22.2%、「世界への復興のアピール」が約11.1%。「競技以外で見たいものは?」は「復興が進展しない姿」が約44.4%、次いで「さまざまな東北の魅力」が約38.9%で続く。「競技・催しはどこで開催するか?」は「宮城県・岩手県」が50%、「東北六県すべて」が約16.7%、「福島県」が約5.6%。「実施する競技や催しは何か?」は「マラソンなどの巨大施設が不要な競技」が約44.4%、「聖火リレー」が約22.2%、「パラリンピック」が約5.5%。「2020年までに東北はどうなっているか?」は「ある程度復興している」が50%、「あまり復興していない」が約33.3%、「加速度的に落ち込む」が約16.7%となりました。

編集後記 ここ数カ月続いている体調不良の原因のひとつが判明した。健康診断の結果、血液検査で「要精密検査」と出ていた。悪玉コレステロールが異常値を示しているという。加えて、胃も「要精密検査」だという。飲みすぎとストレスだろう。これらが体調不良の裾野を形成していたようである。精密検査を受けて、しっかりと対策も講じようと思う。

また、昨年還暦となったため、大腸がん検診案内も来ている。その他、身体のあるところに治療の必要があるようだ。

これまで何とか大丈夫だと高をくくっていたが、いよいよ還暦を迎えての全身点検が必要なのだろう。悪あがきせず素直に従おう。自分の好きなことをやり続けたい。できれば生涯現役でいたい。これからの人生の最大の山場である。

いつもそんなことを思っているが、身体が資本であることをつい忘れがちである。還暦は、どんなに心が若いつもりでも、身体はポロポロである。無理をして良いことはひとつもない。

そこで、夏休み中の身体点検スケジュール表を作ることにした。点検項目はたくさんある。仕方ない。好きなことをやり続けるためである。楽しんで点検することにした。

「東北を世界に！」プロジェクト募集

・プロジェクト募集要領

- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由 (プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ ✕切はとくに設けません

「東北を世界に！」プロジェクト募集

・連絡先/企画提出先

(郵送) 〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1
ホームタウン宮前2-2
電子タブロイド新聞【東北復興】宛
(メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

・ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)

・たくさんのご提案をお待ちしています